

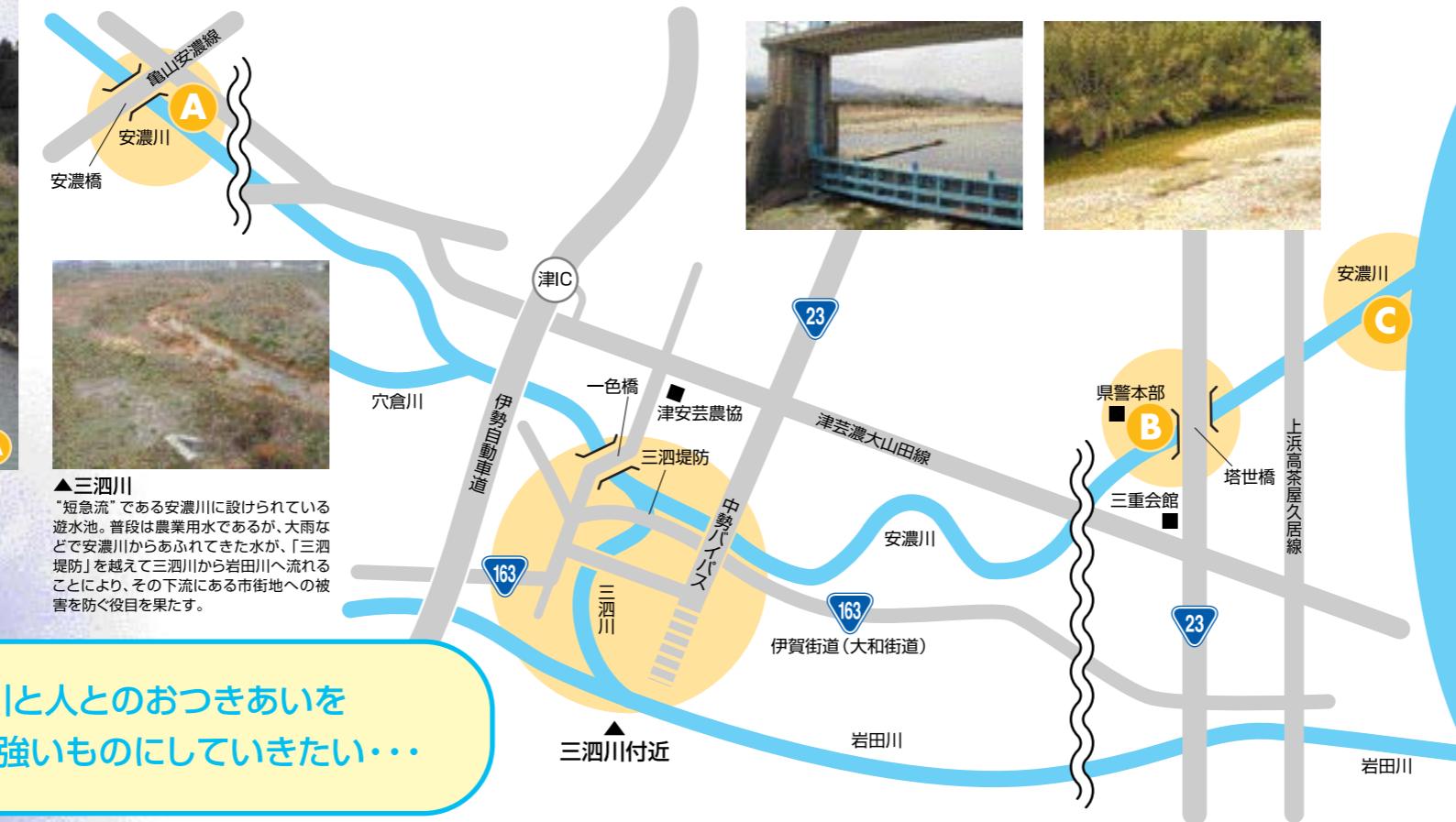


環境教育～人と自然の長続きするおつきあい～



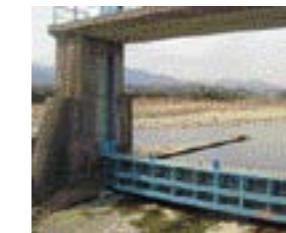
▲安濃川
安濃川は、布引山地をすいげんとして、三重県津市市街地を流れ、伊勢湾に注ぎ込む二級河川。

三重大学教育学部・助教授
荻原 彰 Ogihara Akira
【URL】<http://www.cc.mie-u.ac.jp/~lh20234/homepage.htm>



●環境教育

「環境教育」という言葉、ときどき新聞にも載っています。しかし人によってこの言葉のイメージはずいぶん違うようです。ある人は海岸のゴミ拾いを思い浮かべるし、別の人には教科書に載っていた公害問題のことを考えるというふうに。私は「自然と人間の長続きするおつきあいのための教育」だと思っています。自分の要求だけを一方的に押しつけたり、相手の意向だけに従っているような関係は長続きしません。人間がどんな場面では自然に譲り、どんな場面では自然に譲ってもらうか、それをていねいに考えていくのが環境教育だと思います。



●安濃川

安濃川は決して大きな川ではありませんが、それだけに人に近しい存在で、古くから人の手があり、大切にされてきました。折しも愛知万博(愛・地球博)では人と自然が共生するモデルとして里山が取り上げられています。それにならって言えば、安濃川は「里の川」とでも呼ぶことができる川で、人(文化)と川(自然)が分かれがたく複合しています。近年、川と人が切り離され、古いおつきあいだった両者の関係が見えにくくなっています。安濃川を舞台として、もう一度このおつきあいを見直し、強いものにしていきたい。私たちはそう考えています。

SPECIAL EDITION